

エコニュース さって



第 60 号
平成 27 年 7 月 6 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

第 1 回市民環境講座「中川探検ウォーク」結果 「鳥が植えた樹」の発見！

報告：久保田

4 月 18 日、平成 27 年度幸手市環境課主催第 1 回市民環境講座「中川探検ウォーク」がおこなわれました。一般参加者 14 名とスタッフ 8 名、NPO 法人「とよあしはら」の山本裕隆氏を樹木・野草の講師に迎え、河川敷に咲く菜の花を眺めながら、中川の上流に向かって宇和田公園を目指して東公民館を出発しました。

中川の堤をレンガタイルで舗装した「ふれあい散策路」に入り、しばらく行くと堤上にちょっと大ぶりの樹が目に入ってきました。背の高い樹のまわりに、何種類かの樹木が狭い範囲に生えていて、ちょっとした茂みを作っている。近づくと、いろいろな樹が好き勝手に、お互いに絡み合っ生えていて、この樹はいったい何の樹かと思うほど。山本講師の説明によれば、これは「鳥が植えた樹」という。「たまたま川の水に流されてきた種か、鳥のフンに入っていた種から堤上に 1 本の樹が生える。その樹に鳥が止まり、実を食べながらフンをする。そのフンの中に他のところで食べた木の実の種が含まれていて、1 本の樹のまわりにあらたに芽を出す。いろいろな鳥がいろいろな種を運んできて、この樹が造られたのだ」と説明してくれました。

おもしろいことに、ここから 200m ほどの間に、こうした複数の樹木が絡んだ「鳥が植えた樹」が間隔を置いて 6 セットも！ 今まではそうした視点を持たなかったのが気づかなかったのですが、「鳥が植えた樹」として改めて見直してみると、これは「中川に残された自然」の特徴のひとつとして、大事にされるべきものではないかと…、個人的な感想ですが。

宇和田公園に到着。大正 6 年日本の公園の父、本多静六博士設計によるこの公園には、当時植えられた樹と比較的若い樹が混在していますが、樹木の名前や特徴などを山本講師の説明により園内を散策。公園の東屋の近くで記念撮影と昼食の休憩。その後、中川の反対側の堤を歩き、東公民館に戻りました。

東公民館にて、本日の探検ウォークのまとめ。山本講師からは日本における「植物学者の系譜」や、「特定植物の流行」についての講義がありました。さらに、講師持ち込みの「草もの盆栽」の紹介も。樹木の盆栽に比べ、手軽に楽しめるとのことでした。参加者からの感想には、



山本講師と中川探検ウォーク隊(宇和田公園)

「大阪から引っ越してきたが、この会に参加して、ますます幸手が好きになった」などの、うれしい反応がありました。



鳥が植えた樹！



山本講師手作りの「草もの盆栽」

第 9 回ホウネンエビ観察会結果

報告：藤城、石井、久保田

5 月 16 日（日）心配された天気も開始時間前には雨も止み、風もない曇り空になりました。今回は市内の小学校の運動会と重なり、親子で申し込まれた方が参加できなくて残念でした。一般参加者 6 名とスタッフでいつも少人数でしたが、ゆっくり見学・観察できました。

西公民館で挨拶、行事内容の説明後、10 時より田んぼへ出発しました。第 1 の田んぼではホウネンエビの姿が見られず、2 番目の陸田に向かうと東側には小さめのホウネンエビが沢山いて参加者一同大興奮、小さい網ですくって容器に採りました。西側に移ると大きいのが沢山いてこれらも採りました。ホウネンエビを入れた容器を持って公民館に戻りました。双眼実体顕微鏡や、ルーペ、ミルソーでよく観察しました。11 対の足が柔らかく動き、そしてメスのお腹の卵のモコモコと動くのが興味深く、生命の不思議さとさを見る思いがしました。今回は、ホウネンエビの太い腸のような緑色の消化管が人間の背骨のように一直線に身体を貫いている様子が見え、食べ物で色が変わるといいうのもこれのせいかなと思いました。

毎年、同じように見ていましたが、毎回違う気付きがあって知識が増えていくのも楽しいものでした。また次回は親子での参加者が沢山いるといいと思いました。

なお、今回、西公民館周辺でのホウネンエビの発生地域を航空写真に記入したので、今後の観察会の参考にすることにしました。



一寸小さいけど沢山いるよ！



メスのお腹の卵を観察！

幸手小学校環境出前講座

報告：宮田

日 時：平成 27 年 5 月 22 日（金） 10:30～12:10

ゲストティーチャ：石井、久保田、坂本、澤村、高久、八木、藤城、唐澤、宮田

テーマ：『身近な環境の生き物を調べよう！』『田んぼの妖精に会いましょう』

水田には田んぼの妖精と呼ばれる『ホウネンエビ』と言う小さな生きものが生まれています。皆さんのまわりには、普段気にも留めないたくさんの生き物や草花などがあります。そんな身近な自然について私達ゲストティーチャと幸手小学校の 4 年生 37 名の児童の皆さんとで調べ学習観察を行いました。

実際に観察する前にゲストティーチャの石井さんから、田んぼに生きるホウネンエビの名前や特徴を知ることの説明を受け、ホウネンエビ観察と植物観察に分かれスタートです。

身近な植物や草花を調べる視聴覚室では、イチゴ、ヘビイチゴ、ドクダミの花、タンポポなど虫が花粉を運ぶ「虫ばい花」また、風が花粉を運ぶ「風ばい花」のオオバコなどを観察しました。双眼実体顕微鏡で観察すると「ヘビイチゴの表面の均等な美しさ」「ドクダミは初めて見た、臭いけどとてもきれい」「タンポポの綿毛はとても不思議な世界」とミクロの世界に感動していました。動物と違い植物は足がなくても、遠くまで広がる話には真剣に耳を傾けていました。身近な植物もルーペや双眼実体顕微鏡で見ることにより、興味を持つと同時に植物も大切

にしたいと言う気持ちが伝わってきました。

ハウネンエビの観察を行うオープンスペースでは、水田がどのような状態になると、ハウネンエビが発生するのかを知り、グループ別にミルソー（薄い観察用水槽）とルーペで実際の姿を観察、ゲストティーチャから①ハウネンエビのオス・メスの見分け方②泳ぎ方の特徴や足の数③実際の大きさを確認などの指導を受けました。オスとメスの数を数えたり、エサをかき集めるようにして泳ぐ様子を観察しました。双眼実体顕微鏡を使いメスの卵を観察すると「動いてる〜」「卵の色が青かな？」と驚きの喚声が響きました。手のひらに乗せて直接触れてみてハウネンエビの不思議な感触に驚いていた様子でした。少し小さいハウネンエビでしたが、違いを探そうとより一層真剣に見つめていた瞳が印象的でした。

児童たちの観察ノートにはハウネンエビや植物のスケッチが上手に描かれていました。

「ハウネンエビの一生」のビデオが始まると賑やかだった児童もビデオの音声を遮ることもなく、静かに神秘的な妖精の誕生に見入っている様子でした。

学習のまとめとして「生態系のピラミット」の図を使いゲストティーチャの藤城さんが生き物の仕組みについて説明しました、最初「生態系って何？」と解らなかった児童も土の中の生き物から木の上の大きな鳥のところまでの縮図には目を丸くして聞いていました。生きている物は皆、必要とされていることを学んでくれたのではないかと思います。

児童からは、「ハウネンエビを触ったらプニプニしていた」「ハウネンエビはミジンコより小さいものを食べている」「オタマジャクシより小さい」「卵を産んで死んでしまう」「オスは緑色でメスは茶色でした」「顕微鏡で花を見たら、目で見えないところがいろいろ見えた」「ドクダミの花がきれいでした。毒を消すことを知りました。」などの素直な感想の発表を聞き、幸手の自然に対し興味を持ってくれて一つでも覚えよう、学習しようとの意欲を強く感じ、ボランティア活動の効果を意識しました。



プニプニしているね！



ドクダミは毒を消すの、でも花はきれいだね！

第 120 回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村（以降、同じ）

11月16日（日）、9時集合、晴、20名出席。

前年度作製し残っていた熟成腐葉土を頒布。新年度の第二基の落ち葉の仕込みを行いました。ダイコンはスーパーで販売している位に育っていて、少し早めですがより栄養のある葉を食するために、折らないようにしながら、全体の約半数（8本／人）を収穫しました。その後、ジョイフル本田で購入しましたタマネギ1500本植え方を熟知した人に倣って全員で植えました。先ず、横に4本植え用に畝づくり、その上に孔のあいたマルチフィルムを張って風で飛ばないように両側を土と間隔をあけて石で抑えました。フィルムの孔に指くらの棒で苗の根が入るような穴をあけ、根が表面に出ないように根から指し込み、後から土を被せました。これまではフィルムの横幅に合わせて横に5本植えをしましたが、フィルムの両側が風でまくれ易いので、今回は風対策から横に4本植えとしました。

第121回腐葉土と野菜づくりの会

12月21日(日)、9時集合、快晴、18名出席。

大変寒い中での第一基と第二基の切返しと第三基の落ち葉の仕込みを行いました。終了後、畑に移動して2回目のダイコンの収穫。11月の収穫の時に比べて下葉が少し枯れましたが生長して、会員の皆がビックリする程に径が10cm位に成っていました。一本が重くて、7～8本/人の収穫となり持ち帰るのに苦労しました。葉を落としてから、冷蔵庫に保管し、また土の中に埋めておくと冬一杯は食べられると案内しました。会員の皆さんから太くても中が殆ど空いてなく、色々な料理に使うことができ美味しいとの声が聞こえてきました。

第122回腐葉土と野菜づくりの会

1月18日(日)、9時集合、快晴、出席者17名。

北西の強風で大変寒く、出席率も少なかったようです。前回に続いて第一基と第二基の切返しを行いました。タマネギの1回目の追肥に化成肥料(チッソ：リン：カリ=8：8：8)を根の周りに10～15粒程度行いました。また、前回のダイコン収穫後の草取りを行いました。

第一基は床を作製後約4ヶ月経過し3回目の切返しを行った結果、かなり発酵・熟成が進んでいて2月の頒布に間に合うことを期待しています。第二基は3ヶ月経過で後から新しい落ち葉を切りこんでいるので、切返し作業中、暖かく湯気が出て発酵中でした。5月の連休中の野菜植えに間に合うよう4月に頒布できることを期待しています。

第123回腐葉土と野菜づくりの会

2月15日(日)、9時集合、快晴、出席者19名。

立春過ぎても北西の強風下で非常に寒い日でした。各位のジャガイモ植付け前の散布用に第一基の熟成腐葉土を頒布、二基、三基の切返しを行いました。畑にジャガイモ植付け前の準備のため熟成腐葉土と鶏糞の散布を行いました。

当日、午後1時半～3時まで中央公民館で、第2回役員会を開催。全員が責任を分担する制度へ体制の見直し、リーフ制度の簡略化、26年度事業の総括、退会や新入会員に伴う連絡網の変更が審議されました。

第124回腐葉土と野菜づくりの会

3月15日(日)、9時集合、曇り、出席者21名。

冒頭に、4月22日(水)平成27年度総会で当会の26年度事業実績と27年度事業計画を審議したいとの連絡をして作業に入りました。

今回は、第二基腐葉土の切返しを実施。畑では80cm幅で畝づくり、30cm間隔で種ジャガイモ(男爵20kg+キタアカリ10kg)を、芽を残しながら半分に切り植付けました。各ジャガイモの間に元肥として軽く一握りの化成(チッソ：リン：カリ=8：8：8)を施肥。前日、女性が使える軽めのくわ2本と畝なわを購入し、早速使用し好評でした。

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★問い合わせ・申し込み ★ 澤村 邦夫(代表) まで TEL 0480-42-3384

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園20期)